講演録

韓國の産業化と文化の変容

朴　餅洪
（韓國、圓光大學校教授、西南海岸發展研究院理事長）

1．はじめに

韓國は今まで世界のどの國と比べて見ても早い速度で經濟成長を達成した。韓國經濟は1960年から現在まで年平均９％の實質成長率を示している。現在の韓國の經濟規模は、「スペイン」とほぼ同じ水準だが、成長速度は「スペイン」より高い。そのために、2001年には經濟規模面で「スペイン」を追いこし、英國と同じ水準に致るだろうと、韓國開發研究院（KDI）は豫想している。そして、2010年には、英國を追いこし、世界7位圏に進入すると豫測される。韓國は先進國の經濟協力機構である經濟協力開發機構（OECD）に加入する豫定である。本稿では、韓國の産業化過程を經濟發展過程でつかみ、文化の相對的な發展はどのように進展してきたかを、肯定的側面で觀察しながら、他方、産業化の進展とともに蓄積された物質的豊富が必らずしも、文化面に肯定的な影響を與えたのではなく、否定的な側面も少くないことに問題の視点を合わせて見るつもりである。

2．韓國の産業化過程

韓國の日本植民統治から解放をむかえた1945年當時の經濟状況は、悲惨極まりなかった。日本の統治期間中、韓國は日本の必要によって、食料と工業原料を供給する基地役割を果した。特に、1930年代には、日本の軍國主義の追求による必要から、軍需的な重化學工業の建設が行われた。しかし、このような重化學工業は主に北韓に偏重していて、南韓は農業中心の産業構造に限られていた。南韓の工業といえば、紡織工業・纖維工業などの軽工業が部分的に散在していた。また、發電施設も北韓地域に偏重していたために、1945年の南北分断とともに北韓からの送電が中止され、南韓は極端な電力の不足状態におちいった。1940－50年代には、人口の３分の２以上が傳統的な農業部門に従事し、近代的な産業にあたる鑛工業に従事した人口は、人口全体の10％にも及ばなかった。とくに、1950年に發生した韓國の南北戦争は残存していた産業施設を完全に破壊してしまった。南北

戦争が終った後には、社會間接資本と生産施設の大部分が破壊された状態であった。休戦協定が調印された1953年の場合、GNPの5分の4が農業生産の所得であり一人當りの國民所得は、その當時のドル基準で67ドルにすぎなかった。

このような状態におちいった韓國經濟の成長可能な要因としては、傳統的儒教的価値を継承した韓國人の誠實性と教育であった。また、教育を大衆的に普及するために助けになった「ハングル」(韓國の文字) も少からず寄與した。既存の秩序社會に順応しながら自制力を強調する儒教的価値を尊重した韓國人は、産業發展の役軍としてつとめるのに必要な天賦的な資質を備えていた。そして、「ハングル」は大衆的に習び安い文字として國民教育の量と質を拡大・提高するにあたって、大きな役割を果した。現在、よく教育された優秀な人的資源の確保は「ハングル」という國民的文字がなかったと仮定したら、大きな制約をうけたかも知れない。李承晩政府は、戦争の被害から經濟を再建しようとする意思とともに、この期間に實施した教育投資と農地改革などは、韓國経済の發展に必要な最小限の基盤となった。1961年に執權した朴正熙政府は、輸出の増大を通じた經濟成長に經濟政策の焦点を合わせた。このような輸出主導型の經濟政策は、1960年代の年平均經濟成長率8%、輸出成長率30%という著じるしい成果をあげた。

1970年代は軽工業から重化學工業中心の産業構造に移行する構造轉換政策を行なった。その當時、重化學工業への政策変化は物価および賃金上昇・輸出減少という副作用を招いたが、現在の技術産業化の基盤を築くために必要な役割を果した。ただ、問題となるのは、財閥中心の經濟構造が經濟の大企業集中力を高めて、中小企業の領域を奪ったことである。1980年代には、1970年代の2回にわたる石油波動と重化學工業の育成政策によって高まった物価上昇の緩和策として、物価安定化の政策を追及した。1970年代の重化學工業政策の副作用を除くために、金融の自由化・輸入自由化などの自由化措置を取った。このような措置が1980年代の後半期の3低減少、即ち、低い石油価格・低い國際金利・低いドル価値という好材によって、韓國經濟の高度成長が持續され國際競争力を養うのに助けになった。しかし、1988年以後には、民主化運動の激化と共に労働争議が頻發しながら、急激な賃金上昇と一緒に物価上昇率が高まって、韓國經濟の安定基調が破られはじめ、國際競争力が退潮した。このような經濟危機に直面して、韓國の企業は、労働集約的な生産過程を中國ないし東アジアに移し生産費を節減したり、また、中國に對する輸出需要の増大と日本の圓貨の上昇などが助けになって、經濟的難局を打開することが可能であった。したがって、韓國は1990年代にも年平均7%の成長率を維持した。上述したように、1960年代初期までも名目的な農業國家に

留まっていた韓國が、現在は未だ、先端的水準には弱いとは言え、それ相當に高い技術分野を基盤にした産業國として發展したのである。

3．現代文化の危機

20世紀後半の人類は、全世界的に文化の喪失危機を経験している。大規模な生産力の發達により、長い間、共同しながら居んできた共同体から離れて、都市化の波に囲まれ、都市へ移住するようになる。したがって、農村の人達は「農村」という共同体から享有してきた「土地」と「村」、また「父母の愛情」を失うようになった。そのかわりに、「かね」をもうけなければ、生きられないという強迫感に追われ、「映画とポップ・ミュージック」などの大衆文化によって、情緒的な不足感を充さなければならないようになった。とくに、アメリカでは、豊かな社會が到來して個人主義的な享楽文化が傳統的な宗教価値と代替しながら離婚率が急増した。したがって、子供達は正常的な両親の保護のもとで成長することができず、麻薬・銃器事件などの青少年犯罪群団に巻きこまれるような状況である。現在、欧米諸國は情報技術の發達によって、効率性の増大により生活の活性化にあふているけれども、青少年の教育問題では、将来がそれほど明るいとは言えない。かれらの政府は、巨額の資金を教育に投資しているが、その効果は余りない。これは、離婚率の増加によって、健全な家族制度が壊れてしまったからである。

このような状況は韓國の場合も、例外ではない。經濟成長過程を支えた貴重な価値体制がゆれている。とくに、不動産価格の急激な上昇によって、不労所得の階層が急増し、熱心にはたらいて金をもうけるよりは一挙に巨額の金をもうけるというふうな經濟的欲望だけを充そうとする「黄金萬能主義」が勢力を得ている。また、正統性のない軍事政權が登場して以來、獨裁政治とともに權力型の不正腐敗が極に達した。そのために、儒教的道徳を根幹にした韓國の道徳観念にも変化を来たすようになった。すなわち、國家に忠誠し父母に孝行するという韓國の傳統的な美徳を失ってしまった。

1993年から「文民政府」の登場によって、政權の正統性を回復するようになったことは幸いなことと考えられる。文民政府の執權と共にいろいろな改革が行われたが、韓國の産業化過程を通じて、社會全般にわたって蔓延した不正腐敗の根源を取り除くためには、未だ足らない状況にある。

4．韓國文化の特色

韓民族は、約半万年にわたる歴史とその傳統性を伝継している。文化面においても、特色ある固有性を保ってきた。また、韓民族は、佛教・儒教・基督教などの外來の文化を排斥しないで、韓國の傳統文化の枠の中で純化して受容する知慧をもってきた。韓國の文化は、正義を重視し家族と村を中心に生活を營んできた。また、大人を尊重し礼儀を守る良い特性をもっている。近來には、基督教文化の影響を受けて、家族や地域また國家のバウンダリを越えて、人間の温情を実践する世界的な救濟活動と宣教運動も盛んである。このような韓國の文化の特色の中で、もっとも重要だと考えられる“正義に對する尊重性”と“家族中心の文化”に對して考察する。

(1) 正義を尊重する文化

韓民族は、昔から正義を重んずる傳統をもっていた。儒教の影響を主にうけた正義を尊重する思想は、朝鮮時代には“士人”(韓國音でセンビという官職につかない學者を指す) 精神として表れた。“正しい事”のためならば、命を奉げることさえ憂れないという“センビ”の気概は、朝鮮時代の歴史の中で多く見い出される。世祖の王位の剝奪に反對して、華麗な貴族生活を投げ出して“死の世界”を選んだ“四六臣”・“生六臣”の話しは、今も、われらの胸に感動を與える。このほかにも、百姓の生活向上を圖る改革を進めたことが問題となって死境を選択した趙光祖、また日帝の韓國侵略を世界に訴えて自決した李準などは韓國の“センビ”精神とその気概を表した代表的な例である。このような“センビ”精神は、日帝下では獨立運動に継承されたし、解放後には、不正腐敗と反獨裁闘争に連結された。韓國の民主化に決定的な役割を果した4・19學生革命、5・18光州民主化運動は、韓國の民衆達の正義に對する執着度を見せた歴史的事件である。韓民族の正義に對する情熱は、なんら條件なしに、“正しい事なら実践する”のを躊躇しないという宗教的な性向をもっていた。韓國は、かつて、獨立運動と民主化過程で共産主義思想の影響を強く受けたこともある。しかし、このような影響が韓國の民族運動の主導的な思想にまで發展しなかったのは、“正義が特定の目的達成のための手段”であるという考えかたは、韓國の精神的な文化にはよく似合わなかったからである。

(2) 家族中心の文化

昔から、家族制度は韓民族の生活を營むにおいて、もっとも基本となった。祖父母、父母、子供と結ぶ垂直的構造と夫婦を中心としている水平的構造が互いに組み合って、調和を取っていたのが、韓國の家族制度の特徴であった。このよう

な家族制度の中で、子供達は、父母、祖父母の愛情をうけながら成長してゆくし、老人達は黄昏期を迎えて楽に餘生を過すことが可能であった。しかし、産業化と都市化が進展しながら、韓國の家族構造にも大きな変化を迎えている。祖父母、父母、子供達が一緒になっている家族構造の中での生活は、急速に減少して両親と子供達だけで住んでいる核家族制が増大した。また、欧米のように、離婚率は高くはないが、ますます増大する傾向を見せている。しかし、韓國社會を注意深く観察すると、今も、余り変らず、傳統的な家族構造の枠が残っているのがわかる。息子達や娘達と一緒に住んでいる老人方も、未だ大部分である。一緒に住まなくても近い處で住みながら、たびたび老父母とつきあっている場合も多い。また、遠く離れて住んでいる子供達も、秋夕（仲秋節）や正月などの名節には、老父母が住んでいる處（故郷）をほとんど尋ねる。これは、韓國社會が産業化の急速な変化にもかかわらず、親・子・孫の世代間の連結を基盤にした傳統的な家族制度の核心を、全ったく失ってしまったのではないということを指している。このような現象は韓國の未來のためにも、非常に幸いなことといえる。傳統的な家族制度は、われらの心をあたたかくしながら生活を營むに必要な力を養ってくれるという長所のほかにも、いろいろな經濟的利点もある。

第1に、家族の結合は失業保険の効果がある。例えば、家族の中で一時的に失業をしたり、ほかの仕事をさがすために休んでいるとき、老父母が自分の老後に對備し貯蓄した金で助けてやるとか、兄弟姉妹や親戚達が助けてやる場合は、韓國社會では、たまたまある。これは、一つの保険効果が發揮され、國民生活全体に對しても社會保障的な効果がある。欧米の多くの國の場合、國の財政を利用して失業保険を實施しても、財政をついやすばかりでなく、仕事をしようとする意慾まで低下させる結果を招いた。したがって、このような保険制度は財政の支出を拡大して國民經濟にも望ましくない状態におちいる。3代にわたる家族が一緒に生活する傳統的な家族制度は、このような否定的な要素を伴わないで、家族全員お互いに助けることができる立派な失業保険制度でもある。

第2に、傳統的な家族制度は、世代間の交流を増加させ、合理的な社會保障制度の機能をする。韓國の家族制度は、子供達がまだ經濟的に獨立ができない時には、父母が彼らを教育し獨立が可能な時まで助けてやる。その反對に、父母がそれ以上、經濟活動が不可能な時は、成長した子供達が父母を扶養する。われらの傳統的な家族制度下では、父母と子供達のあいだにおたがいに利益を蒙むることができる。子供達が、父母から蒙むった恩恵に對する恩返しを拒否し、父母の扶養を怠るならば「不孝」という「レッテル」がつくのが韓國の文化の一つの特色

だと言える。欧米先進國は、社會保障制度のために、國民から税金を徴収して、老人方に支給しているが、これは欧米先進諸國の財政状態を大きく悪化させる深刻な要因になっている。韓國の傳統的な家族制度は、政府の負担を増やさないで、世代間の相互的な扶助性の役割を果している。3代にわたる大家族制度は、老人方の長い生活経験を後孫に傳達して、社會へ肯定的に利用される。祖父母と一緒に生活する子供達は、父母が忙しいために多くの時間を子供達とつき合うことが出來ない場合でも、祖父母から生活の知慧を習ぶことが可能になる。これは、學校で習んだ學校教育に家庭教育まで補う役割をする。また、社會全体的には、大衆的な教育水準を高める社會教育の向上にも寄與する。このような家族制度は、社會活動から退職した老人方の知識と経験を後孫に傳える機會をもたらして、間接的には、社會に貢献する効果もある。

5．むすびに

韓國の産業社會は、意外にも健全な革新力を備えていると評価された。1950年代まで、名目的な農業國家として、近代産業としては貧弱極まりなかった韓國の産業化（工業化）が1994－95年の場合、電子・鐵鋼・造船・自動車などの基幹工業部門で遂げた産業構造の高度化は、想像を越えたものであった。韓國は産業化・情報化時代に必要不可欠な條件として、人間の価値を保全してゆくための文化面との調和が望ましいことである。産業化の進展による物質的豊富性の増大が、反對に人間の道徳的・社會的価値体系を破壊してはならない。人間の精神的価値基準を支えて行く文化の發展は、盲目的な外來文化（とくに欧米文化）の模倣から脱皮して、傳統的な地域共同体の美風良俗的な固有文化と外來文化のメリットを摂取・純化された調和的な文化の創造にある。価値観の多様性とは言え、極端に乱雑化している欧米社會は、産業化の急速的發展による物質的豊富性にもかかわらず、大量の失業・財政赤字・青少年犯罪の急増という社會問題で悩んでいる。まさに、近代化ないし現代化のパターンが西欧化だとわれわれの認識を誤導した、かつての経験を、これからは無分別に受け入れないで、自己の優秀な傳統文化の保全または、發展を圖らなければならない。その代表的な例のひとつが、韓國の家族制度ではないかと思われる。21世紀の先端産業社會に似合う文化の継承・創造のためには、韓國の家族制度を縦・横的に發展されることも、一つの方法であると考えられる。

参考文献

・韓國經濟研究院「國際化時代の産業政策」1995.
・毎日經濟新聞社「21世紀の韓國經濟のビジョン」－現代文化の喪失危機－1996.7.
・經濟産業研究會「開放時代の韓國經濟」－韓國經濟の挑戦と機會－1995.
・Friesman.Milton.Free To Choose.1990.Harcourt Brace Jouanovitch.
・三輪芳郎編「現代日本の産業構造」青林書店.1990.